

令和2年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	豊かな人間力を備え創造力に富み、山形の未来をひらく社会的使命を自覚する、健康で実践力のある工業人の育成を期す。
--------	---

本年度の重点目標	1 明瞭で積極的な学校運営
	2 学習指導の充実
	3 生徒指導の充実
	4 進路指導の充実
	5 地域産業界と連携した工業教育の推進
	6 危機管理の徹底
	7 キャンパス制の推進

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

目指す学校像	(1) 地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校 (2) 一人ひとりの個性を生かし、工業分野で活躍できる将来のプロフェッショナルを育てる学校 (3) 産業・社会の変化を捉えた教育活動を展開し、自己実現できる学校
目指す生徒像	(1) 自分の可能性を信じ、自己実現に向かって努力する生徒 (2) 失敗を恐れぬ情熱と挑戦力に満ち溢れる生徒 (3) 礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒 (4) 豊かな感性と社会性、国際感覚を持つ生徒
目指す教師像	(1) 教育公務員としての使命感を自覚し、プロ意識が高く、常に学び続ける教師 (2) 生徒、保護者、地域社会から信頼される教師 (3) 生徒の能力と個性を生かし、社会で活躍できるプロフェッショナルを育てる教師

自己評価					学校関係者評価	
番号	評価項目	具体的方策（令和2年度）	主な数値目標	達成度	今年度の成果と課題 次年度に向けた課題と改善策など	意見・要望・評価等
1	学校運営	(1) 「目指す学校像・生徒像・教師像」の実現に向けて、全職員・全生徒の共通理解の下、協働実践による明るく生き生きとした教育活動の実現を目指す。 (2) 開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の連携を深める。 (3) 教職員一人ひとりが自己研鑽に励み、教員力の向上に努める。	・PTA関連の各種会議では出席率60%以上を目指す。 ・月1回はHP更新し、本校の情報を広く発信する。 ・全職員が参観できる授業研究週間を2週間設定し、教師の授業力を付ける。 ・教員の50%以上が外部の研修会に参加することを目指す。	C	コロナ禍ではあったが、席の間隔を十分に取って、第1回のPTA評議員会と第2回PTA評議員会事前打ち合わせ会議を行った。それ以外のPTA行事は、中止または書面会議として行った。本校のHPの更新は月1回以上行い、本校生徒の活躍を数多く更新した。教員の外部研修に関しては研修会が開催される機会も少なかったので参加率が少なかった。オンラインでの研修会に参加する先生もいたが、校務用パソコンでは参加することができず、個人のパソコンやスマートフォンを参加した。校務用パソコンでもできる環境整備が急務である。	・コロナ禍による今年度の事業中止によって、はからずしもキャンパス制の意義自体が問われる結果になっているような気がします。 ・キャンパス制は意義がないものを意義があるように繕うことはやめるべき。これからの生徒の人生にとって意味のある事業ではない。 ・キャンパス制継続のための時間を他の意義のある事業に振り向けるべきではないか？ ・キャンパス制は費用効果が悪い。 ・技術者としての誇り、喜び、憧れの育成。
2	学習指導	(1) 面白く、わかりやすい授業を工夫するとともに、主体的・探究的な学びに向けて授業改善を進める。 (2) 生徒の興味・関心・感動を大事にした授業改善により、自主的な学習を促す。 (3) 学び合ったことを活かしかう活動を通して、思考力、判断力、表現力を高め、自信に満ちた人間力豊かな生徒を育成する。	・年間出席率99%以上を目指す。 ・生徒の授業満足度3.0以上を目指す。 ・入学定員充足率100%を目指す。	B	コロナ禍において制限される学習形態もあったが、各教科で基礎学力の定着、学力向上のための工夫に努めた。人間性豊かな生徒を育成するため、毎月の朝読書週間に取り組んだ。技能検定をはじめとする進路資格取得にも意欲的に取り組ませた。基礎学力を充実させるため、家庭学習の習慣化など生徒の学ぶ意欲を引き出す工夫が必要である。資格試験の合格率の向上と進路資格取得に挑戦する生徒の育成を図っていく。	・ZOOM等、オンライン授業の充実。 ・IT人材の育成が重要になってきましたが、プログラミングスキルのマスターとその向上の前提として、指示待ちの人材では難しいことがあります。自分は何をやりたいのか、その為に何をどうするのか、更に付け加えると右脳を働かせ創造性を含めて、初めてプログラミングが意味を持つようになる。その意味でロジカルシンキングの他に、グチャグチャにした事象を整理してまとめていく柔軟な思考を若い時に身に付ける教育が必要だと思います。
3	生徒指導	(1) 生徒一人ひとりの規範意識と社会性を高め、家庭・地域及び関係機関との連携を密にして、問題行動やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 (2) キャリア教育の視点により、生徒一人ひとりの特性に応じた日常生活指導と教育相談活動等の充実を図る。 (3) 特別支援教育を推進して、組織的対応と個に応じた支援体制を充実させる。	・問題行動「0」・盗難「0」をめざす。 ・事前指導を充実させ、いじめ「0」もしくは早期解決100%を目指す。 ・各活動出席参加率100%を目指す。 ・部活動において、東北・全国大会出場を目指す。 ・交通重大事故発生件数「0」を目指す。 ・生徒一人ひとりが3回以上のボランティア活動参加を目指す。	B	問題行動は、事故事案・問題行動は5件、盗難紛失破損は0件であった。いじめ認知に関しては、現在までに10件報告されている。特に3学期に報告が多く、担任・学年の速やかに対応で早期解決に向かっているが、生徒同士のより良い人間関係の構築させる指導の必要性を強く感じた。コロナ禍によって生徒会活動や部活動が大きく制限された1年であったが、生徒はしっかり活動できたと思う。交通事故は3件で、重大事故に関しては「0」で目標達成できた。	・県内就職率が94%、更に産技短卒業後も県内にとどまる率が高く、山形の人材育成に大きな貢献をしている。 ・危機管理において、周辺のハザードマップにより市街の規模を想定し、地域との連携で、被害に対応する視点があっても良いのでは？ ・コロナ禍において様々な事業が実施できなかったことが残念です。来年に期待します。 ・目標目的を明確にすることは重要。
4	進路指導	(1) 進路希望を高く持って、それを達成できる人材を育成する。 (2) キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。	・希望進路達成100%を目指す。 ・民間就職と進学の1回目での合格をそれぞれ80%、90%以上を目指す。	B	希望進路は全員内定・合格し100%達成。民間就職第1希望（1回目の受験）での合格率は87.5%、進学（第1希望）の合格率は94.6%で昨年度以上に良好だった。より効果的な指導を実践していきたい。	
5	地域と連携した工業教育	(1) ものづくり教育の質を向上させると共に、新たな時代の要請に応え、地域の発展に貢献できる工業教育を推進する。 (2) 課題研究や外部との共同研究の充実を図り、主体的な課題解決力と表現力を備えた人材を育成する。 (3) 資格取得等に挑戦させ、知識、技術、高い専門性を備えた人材を育成する。	・各種資格取得に意欲的に挑戦し、技能検定では60%以上の合格率、および30名以上の合格者を目指す。 ・ものづくりコンテストや各種大会に参加し、県大会上位入賞を目指す。 ・課題研究では各科7つ以上のテーマで研究を行い、各科研究発表会を通して、取り組み内容を保護者や企業、地域の方々に知ってもらう。 ・公開講座など地域に開かれた取り組みを各科1回以上実施し、専門分野の教育活動を広く地域にPRする。	B	コロナ禍により予定されていた行事や検定が中止となったが、生徒・職員がモチベーションを維持しながらものづくりや資格取得等に取り組んだ。前期技能検定では49名の生徒が受験申請したが、中止、後期では、78名が受験するなど多くの生徒が意欲的に挑戦した。（結果待ち）中止となったコンテストがあったが、各科、大会に向けて意欲的に取り組んだ。さまざまな制約がある中で、地元の小中学生対象の体験教室を実施するなど、地域に根ざした教育活動を積極的に行った。	
6	危機管理	(1) 防災意識の徹底、不審者への対応及び学校情報管理の理解と徹底を図る。 (2) 生徒及び教職員の心身の健康管理に努める。 (3) 公金等各種会計処理を適正に行う。	・避難訓練を年2回実施し、危機意識を高める。 ・救急対応に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・心身の健康に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・公金等執行状況報告に合わせ会計指導を実施する。	B	コロナ禍ではあったが、春と秋の2回、大規模地震後火災が起きたことを想定し防災避難訓練を行った。今年の冬は大雪で避難経路が使えないことがわかり、冬バージョンの避難経路図を新たに作成した。コロナ対応の為救急対応においては、接触する実技を伴うため今年度は残念ながら中止した。心身の健康に関してはコロナ禍ではあったが、感染状況に応じ200Mを用いたり、集会や委員会活動においてもコロナ対応を講じながら実施できた。会計処理において不備の無いように指導し対応した。	
7	キャンパス制	(1) 相互交流の意義を踏まえて、キャンパス制の取組み内容を見直す。	・課題研究の成果を相互で発表することで、両校の理解を深める。 ・生徒会など生徒同士の交流を年2回以上行い、交流を深める。 ・協動的で深い学びをテーマに、研修会と互いの授業参観を行い、教員の授業力向上を図る。	C	今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、両校が一堂に会しての合同課題研究発表会や文化祭での相互交流など行うことができなかった。特に合同課題研究発表会は今年度初めて行う企画で、相互理解や学びの多様性を知る上で貴重な体験となったはずで、残念な結果となった。来年度は対策を講じつつ開催に漕ぎつけたい。	

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	コロナ感染拡大防止のために第2回学校関係者評価委員会は書面会議とした。学校関係者評価委員の方々からアンケートに回答いただき、学校に対する暖かい励ましや心強い応援の言葉とご意見、要望、評価を頂いた。令和2年度は学校行事が新型コロナの影響でなかなか行えず成果は少なかったが、学校としてのコロナ対策はしっかり行った。
---------------------	---